

会 議 録

1 会議名

平成 30 年度第 3 回上越市地域包括支援センター運営協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 平成 30 年度地域包括支援センターの業務について(公開)
- (2) 平成 31 年度地域包括支援センターの業務について(公開)
- (3) 地域支え合い事業について(公開)

3 開催日時

平成 31 年 2 月 7 日(木) 午後 7 時 00 分～午後 8 時 30 分

4 開催場所

上越市役所木田第 1 庁舎 4 階 401 会議室

5 傍聴人の数

0 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：山田 弘子、入倉 康之、植木 信宏、田中 美紀、竹内 明美
馬場 隆信、佐藤 貴規、桑原 正史、揚石 義夫、青山 隆一
押山 貴光、加藤 智範
- ・事務局：健康福祉部 八木部長、高齢者支援課 横田課長、細谷副課長
廣瀬作業療法士長、佐藤保健師長、坪井主任

8 発言の内容

(1) 平成 30 年度地域包括支援センターの業務について

桑原委員：現状の課題として精神科病院との入退院に関する連携があげられているが、具体的な事例はどのようなものがあるか。

坪井主任：主に 2 つのパターンがある。1 つは家族との連携がうまくいかないパターン。支援者側は医療機関の受診又は入院による治療が必要と考えていても、本人やご家族が病気を受入れることができず、繋げられないケース。もう一つが関係機関の連携であり、入院の必要性について地域の支援者と医療機関の共通理解ができていないため、支援者側で入院の必要があると判断して病院に繋いだところ、まだそこまで重症ではないと診断されるケースがある。

- 植木委員 : ベッド数が足りず入院できないというケースもあるか。
- 坪井主任 : 満床で入れないというよりは、そこまで重症ではないため入院は不要であるというケースである。
- 揚石会長 : 日常生活圏域の地域ケア会議でサテライトにおける地域課題と拠点における地域課題では違いはあるか。サテライトの地域ケア会議はどのように行っているか。
- 坪井主任 : 包括ごとによって様々であり、より地域に近い形、同じテーマをサテライトごとに行い、違いを見るというような形で進めている。
- 揚石会長 : 個別地域ケア会議の事例集が地域ケア会議のテーマ設定にうまく利用されれば良いと思うが、年間の事例集は全ての事例をまとめるのか。
- 坪井主任 : 各包括で特徴のある事例などを1つ、2つくらいずつ選んで事例集としてまとめている。
- 入倉委員 : 地域包括ケアシステムの構築を目指す上では、高齢者個人への支援の充実やそのために必要となる社会基盤の整備の両方が必要だと感じているが、地域ケア会議についてその両方の実現を目指す役割を期待できると感じている。個別ケースの課題分析を積み重ねて地域課題の把握に繋がってきているのではないかと感じている。

(2) 平成31年度地域包括支援センターの業務について

- 桑原委員 : 基幹相談支援センターの機能を各包括に移すというイメージで良いか。
- 細谷副課長 : 基幹相談支援センターがまず相談を受けて関係機関に繋いだり、自分たちで支援をするという役割をしたりしているので、そういった部分を地域包括支援センターが担っていくイメージで考えている。
- 竹内委員 : 地域包括支援センターが高齢者のみならず障害者にも対応するというのはとても良いことだと思うが、実際相談に行くと、昼食も取らずに忙しそうに働いている。相談員も資格要件があり全ての包括が当初から配置できるわけではない。相談員のいない所や配置された相談員へのサポートを検討する必要があるのではないかと。
- 細谷副課長 : 職員体制については、今の人数で業務を拡充するのはなかなか難しいと考えており、市としては職員の増員を検討している。今も、バックアップ体制については高齢者支援課介護指導係の専門職が相談対応しているところだが、障害についても担当をしっかりと付けて対応していきたいと考えている。
- 田中委員 : 今後、地域包括支援センターが障害者等に対する相談対応も行うということだが、市の福祉課との役割分担はどのようになっているか。
- 細谷副課長 : 基幹相談支援センターをグリップしているのが障害部門を担当している福祉課であり、介護保険は高齢者支援課の方でグリップしている。地域包括支援センターに入った相談を全て市で対応するというのではなく、現状と同様に地域包括支援センターで介護保険サービスや医療機関などその方に合った支援先に繋げるイメージを持っていただければと思う。

- 田中委員 : 引きこもりの方や障害のある方も対応するという事は、今後は若年の方もあらゆる年齢層が対象になるということか。
- 細谷副課長 : すでに地域包括支援センターではそういった方も含めて対応しているところであり、それをきちんと業務として市で認めて、職員を増員して体制を整えてやっていただくということを考えている。
- 桑原委員 : 引きこもりの方がどのくらい市内に居るのか把握しているか。
- 細谷副課長 : 人数把握はできていないが、地域包括支援センターが相談を受けた案件が年金搾取や虐待などの困難事例に繋がることもあったため、なるべく早く把握をして適切な支援に繋がりたいと考えている。
- 桑原委員 : 山形県や秋田県では、主に民生委員が引きこもりの調査をして実数把握をしているようだが、上越市でそのような調査を行う予定はあるか。
- 八木部長 : 今現在はそういったところまでは考えていない。例えば地域包括支援センターは市内に11拠点あるが、そのうち4拠点は障害部門のない法人が運営しており、そういった所を来年度詰めていくということになる。また、現在の基幹相談支援センターの今後についてもしっかりと議論をしていきたい。今のご意見の実数調査は当然すべきだと考えているが、すぐにできるかということについては少し時間をいただきたいと考えている。
- 青山委員 : 地域包括支援センターの増員に関する予算やスケジュールなど具体的な計画はあるか。
- 細谷副課長 : 基本的には、障害部門の相談を行うことができる社会福祉士の資格を持った職員の増員を考えている。また、相談支援専門員の資格取得に関しては、計画的な研修会の受講を依頼していきたいと考えている。
- 桑原委員 : 職員の資格について精神保健福祉士の有資格者の配置は考えているか。
- 細谷副課長 : 今後、地域包括支援センターの受託法人と協議を行い、また現在の基幹相談センターとも協議を進めていく中で決めていきたいと考えている。専門的な相談となるため、障害の相談にしっかりと対応できる有資格者の配置が大前提と考えている。

(3) 地域支え合い事業について

- 馬場委員 : 毎月出席される方は公民館に比較的に近い所に住んでいる方々に偏っており、地区でも問題として考えている。冬期間は特にその傾向が強いため、各町内の公民館を順番に会場にするようにしたところ、参加者が増えてきた。
- 揚石会長 : すこやかサロンでは送迎はあるか。地域によって異なるか。
- 廣瀬作業療法士長 : 地域によって異なり、住民組織で送迎を行っている所や、近くの町内会館まで出前サロンといった形で集まって実施している所がある。
- 揚石会長 : すこやかサロンと地域の茶の間の棲み分けはされているのか。
- 廣瀬作業療法士長 : 特に棲み分けは行っていない。閉じこもらずに色々な所に参加し、役割を持って過ごす高齢者が増えることを目指している。

9 問合せ先

健康福祉部高齢者支援課介護指導係 TEL : 025-526-5111 (内線 : 1645、1674)

E-mail : kaigo@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。